

1

まとめる

Ⅱア

数百年

政治経済

地球科学

Ⅰ

ウ

(1Ⅱイウ 完答)

世界中で二

Ⅱエ

3イ

4
(記述題)

2Ⅰ

5

6

大気中へ

5

ケ

Ⅶ

ペ

Ⅶ

ソ

Ⅶ

苦勞

同様

人類

8a

b

c

想定

不思議

失礼

1a

b

c

ウ

Ⅶ

イ

Ⅶ

イ

3

ア

4

優

4

同年代

6しっ
かり

7ア

8
(記述題)

5

6

7

8

エ

10

引つ

11

イ

11

1

大気中に拡散した火山灰が太陽
光を反射したために地上まで届
かなくなくなった

(同意可)

4

2

何を言っても三雲さんは固まっ
たまま動かかないし、かける言葉
もなくなくなっ
てきたから。

(同意可)

8

配点

17・8 21・2 各2点×12=24点

14 28 各6点×2=12点

その他 各4点×16=64点

100点

①

1 I:…この文章は大きく二つのまとまりにわけられ、後半の「さらに温暖化が…」から始まるまとまりで筆者の考える温暖化の原因について書かれていた。II:前半のまとまりでは現在の脱炭素の取り組みが大規模な火山の噴火によってムダになってしまっているのではないかとこの危惧について書かれていた。この終わりのところで筆者の考える地球温暖化に対する取り組みがまとめられている。

2 I:「かなり正しい」と考える理由については——線②の前後に書かれている。字数に合う方を答えよう。II:——線②の直後のところで「これ（温暖化）がずっと続くかどうかはわからない」と書かれており、これが『絶対に正しい』ものではない」と考える理由にあたる。

3 「それ」とは「脱炭素社会をつくること」をさしている。なぜ「脱炭素社会をつくること」が台なしになってしまっているのかについてその後の説明を追いかけると、火山の噴火によって地球が寒冷化していくおそれがあることが書かれているので、それに合ったものを選ばばよい。

4 「夏がこなかった」というのは地球全体が寒冷化をむかえたということであるが、ここまでは◎の文で説明されている。火山の噴火から寒冷化がおきる仕組みについて——線③の直後の段落で説明されていたので、 の前後につながるようにまとめよう。

5 直前でまとめられている通り、黒点が多いということは太陽の表面での爆発が大きく、多くのエネルギーが放射されるということなので、地球が暖かくなることから、⑤に「温暖」がはいる。直後に「地球の気温は、黒点が増えたと上がり」と書かれていることから答えられただろう。

6 脱炭素については本文の冒頭でまとめられていた。通読の際に、どういう順番で話が進んでいたかも頭に入れるようにしよう。

7 Y「ペース」…ものごとを進めるときの速度のこと。Z「ソース」…情報などの出どころのこと。

8 a「苦労」は似た意味の漢字をならべた熟語である。「労」のかんむりは真ん中をまっすぐ立てないように気をつけよう。b「同様」は「様」の十画目を下のハネまでつらぬくように書く。十一画目から十四画目までを「水」のようにしてはいけない。c「人類」は「類」の「大」を「数」のように「女」と書いてしまわないように気をつけよう。

②

1 a「想定」は「想」を「相」としないように気をつけよう。b「不思議」は「議」の「我」の部分をきちんと七画で書こう。c「失礼」は「失」を「矢」としたり、「礼」を「札」としたりしないように気をつけよう。

2 Xは並列・添加を表す「に」である。Yは主語であることを表す「の」である。Zの「で」は理由や原因を表している。

3 緊張している様子を選ぶ。——線②の次の文に「三雲さんは微動だにしない」とあり、——線④の一文に「三雲さんのうつむいた顔」とあることから、ここであうつむいてしまったと考えられる。

4 担任の先生が三雲の緊張を解こうとおだやかに話しかけているところであるので、おだやかな様子を表すことばを探していこう。なお、「柔らかない声」は「優しい声」と言いかえられるが、「優しい子」は「柔らかない子」とは言いかえられない。

5 「四十人近く中学生がいる空間」が「同年代が集まる教室」と同意であり、「威圧感」があることが「きつい」と感じる原因になっている。

6 三雲の表情を表したことばであるので、他で三雲の表情について書いているところを探していけば答えが見つかるだろう。

7 梨木が、三雲は「教室やクラスメート」といった「根本的なもの」ではなく「夏服」を気にしているのではないかと推測しているところである。——線Aはそれを自分に置きかえたものであるので、梨木が気にしていた「座席が怖い先輩の隣」であることが三雲にとつての「夏服」にあたり、それと比べられている「試合」が「根本的なもの」にあたる。

8 先生の様子については、先生が三雲に語りかける会話文の前後に書かれている。その中から「困った」理由にあたることを探していくと、「次々と言葉を投げかけたけど、どれも三雲さんにはヒットしなかった」と「先生は手持ちの言葉も底をついてきて」が見つかるので、これらをわかりやすくまとめればよい。

9 クラスメートは三雲に対して、『どんな子だろう』『そんな緊張しなくていいのに』くらいの気持ちで——いて、梨木が学ランの話をした際には「この空気を何とかしようと、みんなも懸命に盛り上げて」いた。三雲の緊張を解こうと自分たちもクラスの雰囲気作りに参加した結果三雲が席に着いたので、このときの気持ちは「よかった」や「やった」というものだろう。

10 似た意味のことばを探せばよいのだが、この問いについては「三雲さんが夏服を 」という形の部分を探していくことでも答えが見つかる。答えを文中から探す際の視点をいろいろ持つておこう。

11 梨木が三雲の緊張を解こうと学ランの話を始めたのも「夏服、大丈夫かな」という三雲の思いが頭の中に伝わってきたことがきっかけであり、三時間が終わったあと何人かのクラスメートから「エスパー」だともてはやされ、「ただ、『一人半袖で目立つかな』と三雲さんが思っているのが、なんとなく伝わってきただけだ」とふり返っていることから、梨木がこの場面でこだわっているのは「人」の思っていることが伝わってくる」ことであると考えられる。